

Question 6 : 介助ベルトを使って1人で、ベッドから車椅子への移乗を介助するにはどんなコツがありますか？

Answer :

- ◆ズボンのゴム部分を持って対象者の身体を持ち上げようとする、ズボンの股の部分が股間に食い込んで、陰部が圧迫されて不快感や痛みを与える可能性があります。
- ◆対象者の身体を持ち上げると、介助ベルトがウエストに抜けて緩くなってしまいます。
- ◆介助ベルトは車椅子やベッド上での後方への水平移動をするときにも使います。



写真 5

- ◆麻痺がある場合は患側にバランスを崩しやすくなりますが、介助ベルトをしていると重心に近い腰の位置を支持することができますので安定します。
- ◆重度の対象者役をベッドから移乗させる場合、介助ベルトを使用することによって介助者の腰椎屈曲角度は 44～50%、骨盤傾斜角度は 28～44%減少し、腰部圧迫力は 17～22%減少したという報告があります（柴田ら 2008）。
- ◆介助ベルトを使用した場合と、介助者の肩に上肢を回す方法で、介助者の筋電図を比較した研究では、介助ベルトを使用すると大腿直筋の筋放電が大きく、腰部最大屈曲角度が小さかったことから、膝関節の屈曲を用いて、つまりボディメカニクスを使って起立介助、着座介助を行っていると考えしています（高柳ら 2007）。
- ◆必要に応じて、介助者が介助ベルトを使用して対象者につかまってもらくと、介助者の肩につかまるために上肢を挙上させる必要がありませんので、対象者は楽です。介助者の肩につかまろうとすると、対象者は腰を伸ばして立ち上がることになりませんが、介助ベルトにつかまると前傾姿勢をとって立ち上がるすることができます。
- ◆手順については、p. 11<手順：介助ベルトを使用したベッドから車椅子への移乗>を参照してください。

<文献>

柴田克之，西野愛佳，山田早織，他（2008）：ベッド端座位からの立ち上がり動作を介助する時の腰部椎間板内圧迫力の推定と姿勢評価，日本作業療法研究学会雑誌，11(1)，21－27.

高柳智子，吉川日和子（2007）：ベッダー車椅子間の移乗介助における介助者・被介助者の身体負担の検討，日本看護学会論文集看護教育，(37)，348.

＜手順：介助ベルトを使用したベッドから車椅子への移乗＞

1	対象者に移乗の目的・方法を説明し、同意・協力を得る
2	対象者の移乗前に、車椅子とベッド周りの空間を確保する
3	対象者を端座位にして、端座位が不安定なら、端座位後、手すりなどにつかまってもらう
4	（可能であればアームサポートを取り外した）車椅子をベッドに近づけて車椅子のストッパーをかける
5	介助ベルトをY字になるように、前側を少し下げてしっかり締める
6	介助ベルトのつかみやすい位置の取っ手を握る
7	対象者の体幹を前方に傾斜させて立ち上がりを促す
8	対象者を（上方向ではなく）横方向に移動させながら、回旋、着座を介助する
9	必要に応じて、介助者が介助ベルトをして対象者につかまってもらう
10	車椅子にアームサポートを取り付ける

【介助ベルトを用いた車椅子移乗法動画（YouTube）】

https://youtu.be/RZ8M_aGsx-w



【動画 QR コード】